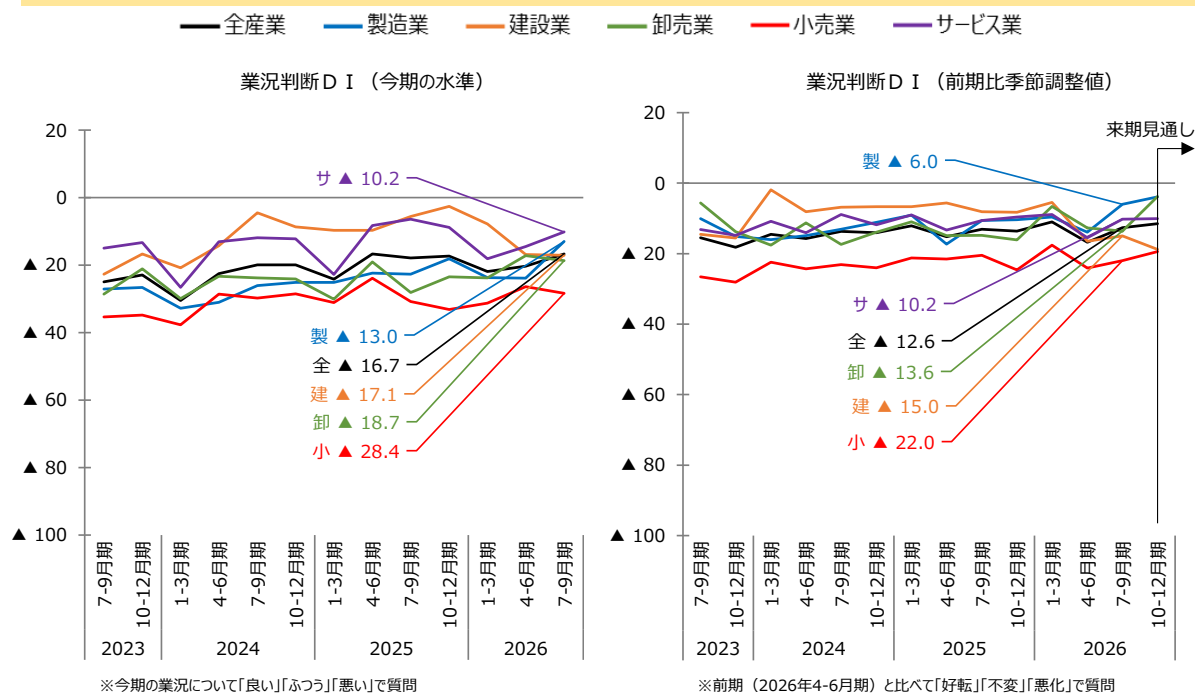


第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 中部

Be a Great Small. 中小企業の価値を、日本の原動力に。
中小機構

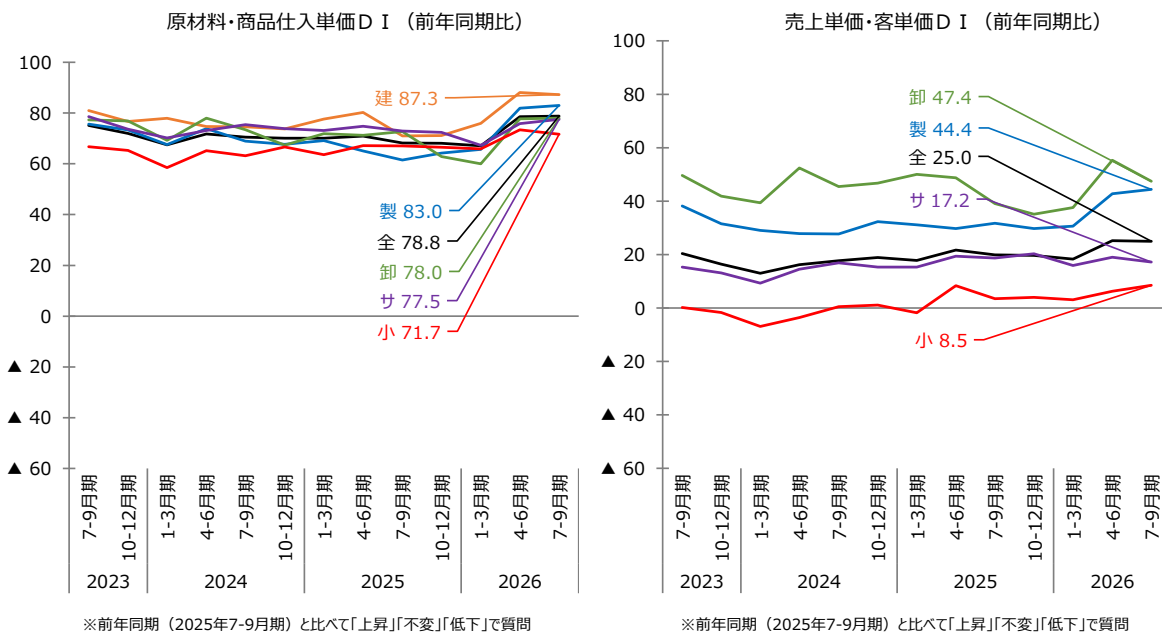
1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より3.6ポイント増の▲16.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の78.8とやや上昇し、2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、小売業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の25.0とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、小売業、製造業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,829 有効回答企業数：17,902 有効回答率：95.1% うち、中部：2,290企業

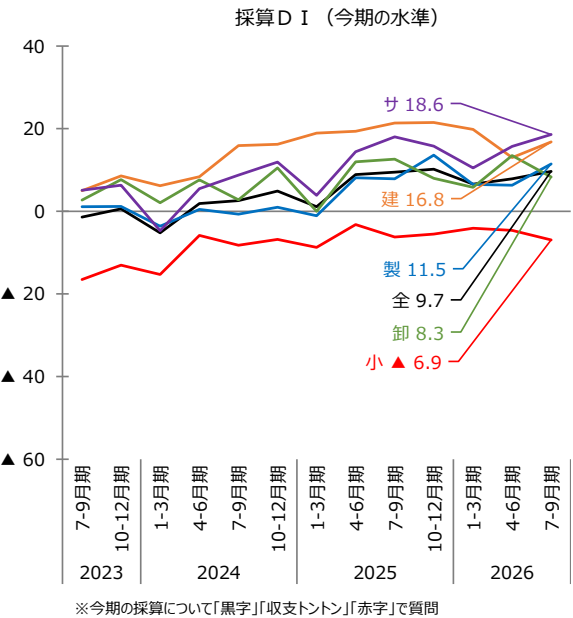
※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 中部



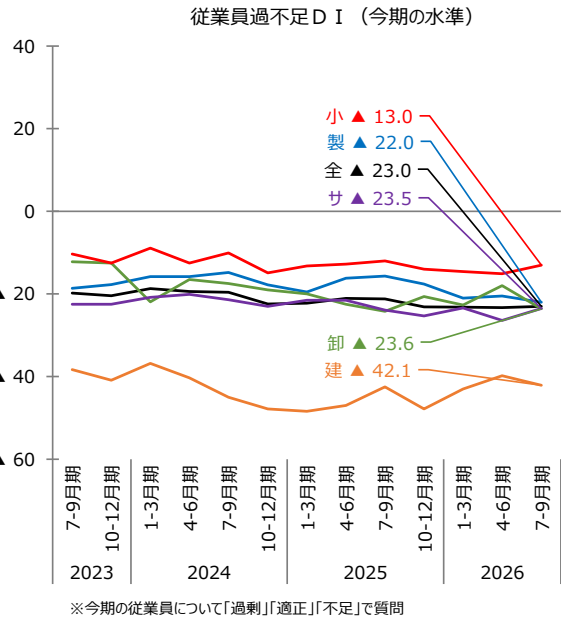
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.8ポイント増の9.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の▲23.0とやや上昇し、5期ぶりの上昇となった。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、建設業、製造業で低下した。



5. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	価格転嫁交渉は一段落し、売上高も例年並みを確保しているが、人件費や調達物資価格の上昇、包装工場の減価償却費が重荷となり、利益確保は依然厳しい。申請中の製品の許可・販売による業況改善を期待している。	製造業	医薬品製剤製造業
	受注を受ければ仕事は沢山あるが、人手が足りずに受けることを断っている。外注に頼むと高額な請求になるので検討している。互やアルミサッシが3割強高騰し、収益はほとんどない状態である。	建設業	木造建築工事業
	高付加価値化粧品はコロナ禍以降変わらず低迷。低単価の商品を増やし、需要の喚起を促すも苦しい状況。一方、健康意識の高まりから健康食品関連は新規も増加。だが化粧品の落込みをカバーするに至っていない。	卸売業	化粧品卸売業
	物価高の中、消費者の世代の変化が早まっていると感じる。今まで売れていた商品がぱたりと売れなくなり、まったく売れていなかった商品が求められたりする。	小売業	食料品スーパーマーケット
	お木曳き行事が終了し、猛暑も相まって、集客数がぐんと落ちてしまった。	サービス業	喫茶店
見通し	自動車関連は昨年の米国関税の影響による減産から脱却しつつある。F A 関連は、A I やデータセンター需要に後押しされ、今期は大幅な受注増が期待できる。	製造業	アルミニウム・合金プレス製品製造業
	材料の入手難と価格上昇が4月初め頃から顕著になった。その影響で一時的に景気後退感もあったが今は回復しているように思われる。今後は価格上昇による民間需要の停滞が心配である。	建設業	板金工事業
	原材料の供給が不安定で価格が上昇し、プラスチック食器類や陶磁器食器類の製造が制限されて仕入商品の価格上昇が止まらず、売上・利益の見通しがつかなくなっている。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	地域のプレミアム商品券発行により前期と比較して一時的に売上が増加した。エアコンの買い替え需要が年末にかけて増加することを期待している。	小売業	電気機械器具小売業(中古品を除く)
	千葉県の洪水など災害が相次いで起こっており、中古車の需要が上がってきているので、その需要は更に上がると思われる。この対応について考えていかなければならないと感じている。	サービス業	自動車一般整備業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)